

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	敬愛シンフォニー保育園
施設所在地	東京都八王子市散田町4-7-11
法人名	社会福祉法人 敬愛学園

対象：3歳児

1. 活動のテーマ

<テーマ>

光

<テーマの設定理由>

お部屋に差し込む光に、手をかざして影をつくったり、カラーボトルやセロファンを通った光（影）に色がついていることに気が付いている様子が多く見られた。
光への興味をより深め興味が広げられるように、光源なる懐中電灯やミラーボール、セロファンやカラーボトルなど様々な物を用意した。この活動を通して、お子さまの「どうして?」「こうしてみたらどう?」「やってみたい!」などの言葉がたくさん聞かれるような言葉かけや活動を行った。

2. 活動スケジュール

10月・11月 お子様たちの日々の様子の観察と環境設定用品準備
12月～ お子様たちの日々の様子の観察継続、環境の設定
日常の活動・夕方の自由遊びの時間での活動で実施

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【準備した素材・道具】

- ・ 戸外でも活動できるようにラミネートしたカラーセロファン
- ・ 透過性に違いのある紙や枝などの素材
- ・ 透過性の高い色水やカラーテープを入れたボトル
- ・ HIKARItO TABLEとアクリルボックス
- ・ 懐中電灯

【環境設定】

- ・ 卓上にスクリーンを設置し、懐中電灯を使って光の変化を観察できるようにした
- ・ 透過性の違いのある素材を多く用意し『光ラボ』を設置した。
- ・ HIKARItO TABLEとアクリルボックスを保育室内に設置し、光の透過の観察ができるようにした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・戸外にラミネート済みのセロファンを持っていき、自然の光の中での透過性を観察したり、色の付いた影の重なりに気づきその変化を楽しめるようにした。
- ・日差しが差し込む床にカラーボトルを並べ、水面の揺らぎやカラーテープの光の反射の観察を楽しめるように、手の届きやすいところへボトルを設置し、好きな時間に活動できるようにした。
- ・卓上に設置したスクリーンに、ブロックやカラーボトルを置いて光の透過や反射、影の揺らぎなどいろいろな現象を体験できるよう、お子さまが遊びの中で光を感じられるようにした。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

朝の会で「最近なんかまぶしいね…」のお子さまのつぶやきから、太陽の『光』に興味がわき「カラーセロファン」を太陽にかざすと、カラーセロファンの色が床につく事や、カラーセロファン越しに見る景色や友達の顔が映る色の違いを楽しみ、感じる姿が見られた。それを戸外に持参し光にかざしてみると、「あれ何かここが青くなってる！」と発見し、みんなで大喜び。いろいろな色を重ねてみたり、眼鏡にしてみたりして、様々な発見を楽しみながら遊ぶ姿が多く見られた。また、曇りの日に自分たちで作成したカラーボトルを使って「お日様にあててみよう！」と窓際に置くと「先生大変！お日様がない。」「雲がいて見えないよ…」と肩を落としていた。晴天と曇天の光量の違いに気づいていた。そこで天気によって活動が続けられるよう、卓上にスクリーンを設置し光源となる懐中電灯を準備し『光ラボ』を設置した。活動を通して影の動きや大きさの変化、カラーセロファンの色の重なりによる光の色の変化などに「どうしてだろう」「なんで?!」と目を輝かせていた。

また、HIKARitoTABLEとアクリルボックスを活動に取り入れたことで、光の色の変化に夢中になっていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

朝の会の会話がきっかけとなり室内や戸外の『光』を自ら探し、気づいたことを保育士や友だちに知らせる姿が多く見られるようになった。発見や変化を楽しみ、気づきを共有することで、より興味を持ち『光』を使って遊ぶ姿が増えていた。初めの頃は太陽光を使った活動をしていたため、天気によって左右されてしまい興味を深める機会を逃しそうになっていたが、自然光から人工の光源に移行し、安定した「光」がある環境を設定できたことにより、より探求心や好奇心を育む機会を創出することができた。